

出題分析		
試験時間 60分	配点 50点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 <b>増加</b> ]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 <b>難化</b> ]
<p><b>【概評】</b></p> <p>設問数は昨年から2問増加し、一昨年と同じ46問となった。出題形式は記述・マーク式の併用で、例年通り語句・正誤文選択や短答記述が中心である。選択問題において2つの選択肢を選ばせる問題は、昨年から5問と大きく増えて7問であった。</p> <p>問題数の増加に加え、特定の教科書の知識のみでは判断しづらい正誤判定問題も多く、易化した昨年と比較すると難化したといえるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	琵琶湖の歴史	古代～近代の政治・経済・文化を中心とした出題。 2. アの恵美押勝の名を授けたのは淳仁天皇。3. 1428年に亡くなった「前將軍」は足利義持。4. 菅浦文書の知識は不要。リード文から菅浦を惣村であると判断し、惣村が自治性・自立性を特徴とすることを理解していれば、イの「領主に依存」は誤りと判断できる。9. Xの日本初の市電（路面電車）が1890年代に京都で開通したことは難関私大で出題されるが、この文での判断は難しい。10. ニコライは、後にニコライ2世として即位するが、1917年のロシア革命で退位した。11. 第五高等学校は、夏目漱石などの著名人が赴任したことで知られるが、受験日本史の問題としては難。	やや難
II	日本史における「軍事」	古代～現代の政治・社会・文化を中心とした出題。 3. Yの「子」は再遷都をはかった平城太上天皇、Zの「弟」は早良親王。4. 出題者はエを誤文と想定したと思われるが、奉公衆には足利一門も含まれていたため正文となる。11. ア・ウ・エで迷う。ウはイギリスが1950年に中華人民共和国を承認したことが、エも日本が会議に参加したことが、それぞれ一部の教科書に書かれているが、それを知らなければ正文と判断できないだろう。	やや難

設問別講評			
III	天皇の歴史	中世～現代の政治を中心とした出題。2. ウについて。後醍醐天皇は、自らの子孫への皇位継承をめざしたため両統迭立に不満を持った。5. エの武家伝奏は、朝廷・幕府間の連絡役にとどまる。7. イの枢密院は、当初憲法草案の審議のため設置され、憲法の規定で最高諮問機関となった。他の選択肢が明らかな誤りのためこれを正文と判断すべきだが、イ自体は誤文とも解釈しうるだろう。10. イは一部の教科書に該当する記述があるが、消去法で解くべきであろう。11. 「い」は、一部の教科書に記載はあるが、難。12. Xの「西隆寺」やZの「都を飛鳥に戻し」が細かく、難。	やや難
IV	学校の歴史	古代～現代の文化を中心とした出題。8. Zの判断は難しいが、Yは基本的な知識であり、Xが誤文と判断できれば正解できる。9. 難。なお、幸徳秋水の「自由党を祭る文」には、保安条例の公布が「総理伊藤侯」によって行われたと書かれている。11. 「い」が細かく、難。なお、『くにのあゆみ』は最後の国定教科書であった。	標準

#### 合格のための学習法

早稲田大学文化構想学部の日本史の問題は、一部に難問が出題される。ただ、多くの問題は受験生が学ぶべき項目から出題されているため、まずは教科書の記述を脚注や引用史料、図版を含めて、繰り返しよく読んで確認していくことが重要である。例年、テーマ史的な出題となっており、中には特殊なテーマも見られるが、設問自体は基本を押さええていれば解答できる問題が多いので、テーマに臆することなく冷静に問題を見ていきたい。また、いくつかは早稲田大学で過去に扱われた内容も見られるので、傾向をつかむためにも、文化構想学部はもちろん、他学部の過去問にも取り組んでおこう。